

教員名	木暮 律子	所属学科	観光政策学科
<p><b>【ゼミでは何を学ぶのか】</b></p> <p>現在、日本には200万人以上の外国籍の人たちが暮らしています。その国籍は190にも及び、日本はすでに「多文化社会」と言えるでしょう。少子高齢化による労働人口の減少や世界的な留学生獲得競争のもと、日本における外国人住民は今後ますます増加していくことが予想されますが、外国籍の人たちを「住民」として受け入れていくための体制はまだ十分に整っているとは言えません。</p> <p>本ゼミでは、こうした多言語・多文化状況にある社会の実態を取り上げ、多文化共生や異文化間協働の観光まちづくりについて考えていきます。また、外国人と日本人が交わる接触場面のコミュニケーションを分析し、そこで見られる問題や日本人の言語行動、日本語会話の特徴を考察します。</p>			
<p><b>【どのように学ぶのか】</b></p> <p>◆2年次：3年次からのゼミ活動をスムーズに進めていけるように、2年次後期からプレゼミを行っています。これまでのプレゼミでは、コリアンタウンでフィールドワークをしたり、観光フォーラムやヒューマンライブラリーに参加しました。また、『留学生生活応援ブック』という留学生のための大学生活ハンドブックの作成を通して、留学生のサポートにも取り組んでいます。</p> <p>◆3年次：3年次には、4～5人のグループに分かれて研究に取り組みます。自分たちの興味・関心に基づくテーマで調査の計画を立て、データの収集から分析、報告までを行います。調査に必要な一連の作業を経験するなかで、研究の進め方や分析能力を身に付けるとともに、報告書の作成を通して論文の書き方を学んでいきます。これまでのグループ研究では、外国人観光客に対する多言語サービス、エスニックレストランにおける国際交流、日韓の旅行ガイドブックの比較、マンガを用いた日本語教材の作成、日本語教室における外国人のコミュニティづくりなど、様々なテーマに取り組んできました。</p> <p>◆4年次：4年次には、これまで学んできたことの集大成として、各自の研究テーマで卒業研究に取り組みます。研究成果の中間報告と討論を繰り返しながら考察を深め、卒業論文を執筆していきます。</p> <p>春休みには、2・3年生合同のゼミ合宿を実施し、プレゼミの活動内容とグループ研究の報告会を行っています。3年次のグループ研究と4年次の卒業研究の成果は毎年発行している『卒業論文集』にまとめていますので、ぜひ図書館をご覧ください。</p>			
<p><b>【学んだことはどのように生かせるのか】</b></p> <p>グループ研究や卒業研究を通して、現状を分析して問題を解決する力が鍛えられるだけでなく、相手の立場に立って考える想像力、物事を多角的に捉えて柔軟に対応する力、自分の考えをわかりやすく伝える力が身に付いていきます。ゼミでの活動は、学生が主体的に進めていくので、思考力や実行力、責任感や協調性も培われていきます。このような力はどのような職業においても求められるものであり、社会に出て必要となる基礎的な能力です。</p>			

卒業生は、観光、金融、小売、出版、情報通信など様々な分野で活躍していますが、ゼミで培った力や自信、達成感が社会に出てからも活かされ、仕事を進める原動力になっているのではないかと思います。

このような社会人基礎力を養いながら、多文化社会において自分を表現することのできるコミュニケーション能力を身に付けていくことが本ゼミの目標です。

**【おすすめの入門書・基本テキスト】**

◇「外国につながる子どもたちの物語」編集委員会編(2009)『まんが クラスメイトは外国人ー多文化共生 20 の物語ー』明石書店：まんがによる 20 の物語を通して、日本で暮らす「外国につながる子どもたち」の背景や問題を知ることができます。

◇荒川洋平(2010)『とりあえず日本語で もしも…あなたが外国人と「日本語で話す」としたら』スリーエーネットワーク：外国人と日本語でコミュニケーションをとるときの話し方や接し方が、実際に起こり得る様々な事例をもとに学べます。

◇『日本語学』vol. 28-6「特集：多言語社会・ニッポン」明治書院：多言語・多文化化する日本社会の現状について、多言語表示、外国人との共生、外国人観光客の増加など各地の実態が5つの視点から論じられています。

**【まだ見ぬ君へのメッセージ】**

言語や文化の違いに関わらず、誰もが安心して楽しく、自分らしく暮らせる社会を築いていくためにはどうしたらよいのでしょうか。多文化共生の地域づくりについて、皆さんとともに考え、実践していけることを楽しみにしています。